

新川神社
社 報鷹
乃
羽

平成二十六年十二月十五日発行
発行所 新川神社社務所
編集者 禰 宜 船木信孝

田んぼ学校、大収穫

新川神社 禰宜 船木信孝



上：H26.3.15 元の荒地
下：H26.4.5 田添啓一氏造成工事



上下：H26.5.15 水田水引工事
並びに造成工事の仕上げ作業



上：H26.5.25 お田植え祭
下：田植えマスター稲垣氏



神社裏側の田は船木家所有の土地で先祖代々、少なくとも洪水で流されてこの地に遷宮してきた四百年前の昔より貫江和夫家、貫江敏彦家、吉田榮一家にて稲作を続けて戴いて参りましたが、将来的には境内地に転用する為、その活用方法を長年思案していました。奉賛会を立ち上げてから土地の活用法を専門的な見地から聞こうということで建築業者三社にご意見を戴きながら進めてきた処、急遽平成二十五年の秋口に田を埋め立てる話が持ち上がりしました。急な話でしたが、これも御神慮だと感じまして、宮総代と合意の上埋め立てに同意いたしました。稲作を戴いていた三家の方々も「神社の境内になるのであれば」ということで快く承諾を戴けましたことは本当に感謝致しております。そして、今までの水田が無くなると御神前に捧げるお米が作れなくなりしますので、私の達ての希望で、小さくとも神様にお供える米を作る「神饌田（しんせんでん）」を、氏子総代会有志の方々協力の下、従来の荒地を開墾し、水を引いて造成しました。本当に、感謝感激でした。長年の夢がこんなに早く、あつというまに実現したことは、神様の御神慮と、何よりも四百年前にも洪水で被災した荒地を開墾して今日の新庄町の発展に寄与された我々の祖先の御霊が力添えしていただいた様な気がします。

新川神社参集殿計画概要のお知らせ

本年より、奉賛会内に建設委員会を設置し、建設業者三社の中から秀でた計画を提示された株式会社オリバー（代表取締役社長・小川博司氏）新庄町第二町内在住）を選考し、目下基本計画を検討しています。（詳細は同時期に発行される奉賛会々報参照）建設場所は昨年埋め立てた神社裏側の旧田地に決定。如何に変則的な立地条件を境内全体として繋ぐことが出来るのか、前後とも正面に見える建物、参道を建物の中に通す斬新なアイデアと、富山県内は勿論、全国を見て物でありませう。外構工事、駐車場整備なども含め、最初から少資金が必要であるとの概算見積もりです。当初の目標金額である七千万まで六百万円、少なくとも四百万円以上が当面必要という事です。何卒ご協力、ご奉賛を重ね重ね宜しくお願いいたします。



上：H26.7.21 下：H26.9.8
中学生が草むしり奉仕



上下：H26.10.15 案山子登場
雨が降る前に急いで稲刈り



上：H26.10.15 稲刈り後に「はさかけ」
下：H26.11.26 感謝祭に米俵にして奉納

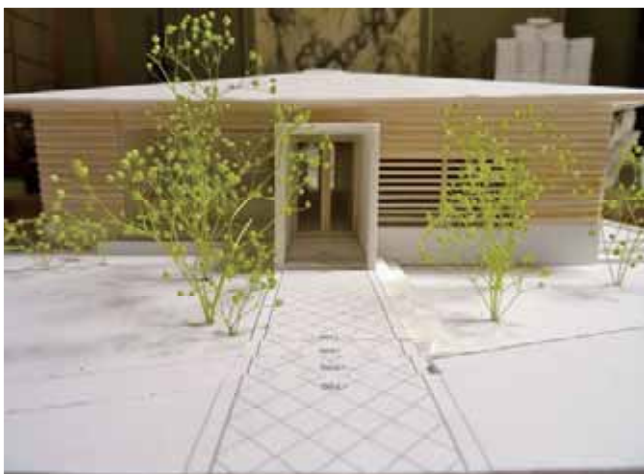


米俵奉納：稲垣幸三氏

今回の企画を運営・援助戴いた県神社庁を始め、水田の新規開墾に始まり、田植え、草むしり、水の管理など吉田榮一さんにお世話になりました。田の造成工事は田添啓一さんにお世話になりました。イセヒカリを種籾から生育していただき、早苗にして戴いた富山市水落の稲垣幸三様（吉田榮一様義父）は、収穫したイセヒカリを米俵にして納品戴き、感動いたしました。宮総代の田添茂信さん何かと田の手入れをして戴き大勢の方々にお世話になりました。本年の田んぼ学校の終業式は「しめ縄作りとイセヒカリ試食会」でした。今年収穫した稲わらで神社の鳥居、本殿のしめ縄を田添宮総代始め氏子の方々に作って戴きました。子供達はお正月に家門に掲げるしめ縄を各自が作りお土産に持ち帰りました。お昼はいよいよ自分たちで植えて稲刈りしたお米、イセヒカリの試食会です。これも最後まで自分たちで作って貰いたいと思ひまして各自好きな具材を真ん中に入れて「おむすび」にして食べて貰いました。みんなお代わり連発で炊いたお米は全部無くなりました。おむすびを八個も食べた児童がいました。さすがです。氏子の大人の方々が田んぼを造り、未来を担う子供達が稲を植えて収穫し、皆でしめ縄を奉納するという流れ自体が、近年乖離してしまつた地元の世代間を繋ぐ重要な役割をすると思ひました。



上下：H26.12.6 しめ縄作り
とイセヒカリ試食会



寒中みそぎ鎮魂作法錬成会開催

平成二十六年二月一日土曜日午後二時より、初めての寒中みそぎ・鎮魂作法錬成会を開校しました。小学生から五十代までの男女三十五名（内女子五名）が参加しました。先ずはみそぎ作法の講習と、本殿では奈良の石上神宮に伝わる神道行法「鎮魂作法」を伝授しました。この神道行法は起源が大変古く、県内で一般人に講習された事は希であります。新川神社の御祭神・大新川命の七世前の祖先神である邇藝速日命（にぎはやひのみこと）が伝えた「十種の神宝」の修法で、古来秘法とされてきたものです。息の業など呼吸法を合わせた臍下丹田を鎮める作法ですので古代日本人の健康法をうかがえる貴重な体験が出来ます。これで伝統文化継承道場の三本柱である「古事記に親しむ」「鷹乃羽雅楽会」に続く「寒中みそぎ・鎮魂行法錬成会」が揃いました。平成二十七年も二月一日（日）に開催いたしますので奮ってのご参加をお待ちいたしております。



鷹乃羽雅楽会 活動報告

平成二十四年九月に結成された新川神社の鷹乃羽雅楽会も当初の目標である平調五曲の習得を目指し、三月から十一月にかけて月二回、日曜日の午後七時～九時まで温習を重ね、遂に目標の曲、越殿楽・五常楽急・陪臚・鶏徳・皇馨急を演奏するまでになりました。今年は特に、「田んぼ学校」が初めて開催されるのに合わせてお田植え祭・稲刈り報告祭に祭典楽を演奏して戴きました。また、神饌田では田植えや稲刈りに合わせて雅楽を演奏戴き、雅やかな雰囲気演出して戴きました。とある実験で、植物の生育に音楽が有効だということで、栽培中にモーツァルトと雅楽とビートルズを聴かせた中で一番生育が良かったのが雅楽を聴いた植物だったと聞いたことがあります。多分、新川神社神饌田のイセヒカリも気持ちよく育ってくれたのではないかと、勝手に思っています。鷹乃羽雅楽会は来年以降も継続的に続けていきますので是非参加してみてください。



古事記に親しむ

平成二十五年五月に開講した当講座も二年目を終えて中巻を読み終えたところです。来年三月から下巻の続きを読んできます。只今昼の部十八名、夜の部十二名の参加を戴き、朗々と古事記の言霊、大和言葉に触れて戴いております。来年下巻を読み終えましたら平成二十八年・四百年のメモリアルイヤーには新しく出来た参集殿で新たに上巻にもどって最初から繰り返し素読します。これをエンドレスに続けていきたいと思えます。古事記は月一回のペースで三年間かかります。最初を待つよりも途中参加でも内容的についていきますので、思い立ったが吉日です、いつでも参加してみてください。

（参加要項・日程等はホームページ参照。講義の様子はH Pブログ「たかのたわごと」に掲載中）



「お宮で飲もう会」活動報告

春まつりみこし曳き奉仕

禰宜 船木信孝

みこし担ぎ講習会



本年の「お宮で飲もう会」は盛り沢山の活動を致しました。二月には寒中みそぎ、四月には春祭り神輿曳き奉仕、六月には神道講義（古事記・高杉晋作・明治維新について）、八月のみこし担ぎ講習会とバーベキューは雨天にて延期、十月にみこし担ぎ講習会を開催、十二月には神道講義（新川神社由緒・新庄御鎮座四百年の意義について）と忘年会という内容で、毎回三十分間、神道や神社の由緒などお伝えする事が出来ました。小川代表がいつも話すこの会のコンセプトは「地域コミュニティを元気にしていく為に神社行事を通じて人と人の縁を繋ぐ事」です。氏子では無くても参加できます。町内会や世代間の枠も越えて交流する場を提供することがこの会の肝であります。